

2022年3月16日に発生した地震に対する耐震評価結果、 詳細点検結果について

2023年9月20日



東京電力ホールディングス株式会社

3月16日地震に関する過去のコメント回答

■ 特定原子力施設監視・評価検討会（第99回）資料1-1で頂いたコメント全10件に対し、その後の対応状況を朱書きで更新した

コメントへの回答と対応状況（1 / 2）

分類	コメント	回答	回答可能時期
1号機PCV水位	・地震により損傷が拡大しており、耐震性が低下しているとの認識のもと、水位をなるべく下げること。また、損傷個所の特定等のために、ROVをPCV内に入れ調査することを検討すること（規制庁）	第102回および第104回で回答済 PCV水位低下についてはPCV内部調査後に取り組む計画	回答済
1号機PCV水位	・損傷の程度、漏えい量などについて注水量などを踏まえた定量的な評価を検討すること（高坂オブザーバー）	第102回で回答済 コメントはスライド3	回答済
耐震評価	・3月16日地震は検討用地震動の半分（Sd相当）を超える可能性があることから、設備の健全性および建屋の劣化状況等の評価に加え、解放基盤表面の地震動や地盤応答の増幅特性などを分析・評価し、現在設計で用いている地震動・地盤モデル等の妥当性を検証すること（規制庁）	建屋に関しては第99回および第100回で回答済	回答済
		タンクエリアの地盤モデルについては今後検討	検討を進めており、年末または年明けの検討会にて報告予定。
耐震評価	・自由地盤系の観測について、地表面のデータが中止している箇所も、今後の地震モデル検証にあたり、観測できるところは観測すべき（規制庁）	第99回および第100回で回答済	回答済
耐震評価	・3号機について、建屋解析モデルに3月16日地震の波を入力して建屋応答解析結果と実際の建屋応答との比較・分析を行うこと（山本教授）	第102回で回答済	回答済
耐震評価	・設備の健全性評価にあたっては、3月16日地震と2月13日地震の特性の違い（卓越する周期や方向の違いなど）を考慮して実施すること（高坂オブザーバー）	設備の耐震評価は、3月16日地震の特性（周期や方向）を考慮して実施する	今回ご報告

3月16日地震に関する過去のコメント回答

コメントへの回答と対応状況（2 / 2）

分類	コメント	回答	回答可能時期
タンクエリア地震計	・Dエリアタンクの地震計と同様な設置方法となっている地震計について、タンクの接地面の地震動が適切に把握できるよう、早急に設置場所を見直すこと（規制庁）	第100回および第102回で回答済	回答済
コンテナ	・転倒しにくい配置・高さにするとか、蓋が簡単に開放しないようにする等の対策を検討すること（井口委員）	第100回で回答済	回答済
今後の地震への対策	・3月16日地震と2月13日地震影響をよく整理し、毎回発生するコンテナの転倒やFタンクエリアの漏えい、タンク内水位計の機能喪失などに対して、できる限り対策を講ずること（高坂オブザーバー）	第100回および第102回で回答済	回答済
4号機原子炉建屋カバー	・主要部材の健全性について、確認結果を示すこと（規制庁）	第101回で回答済	回答済

■ 特定原子力施設監視・評価検討会（第100回）資料2-1で頂いたコメントに対する対応

分類	コメント	回答	回答可能時期
コンテナ	・コンテナの転倒防止の評価内容を示すこと（高坂オブザーバー）	第101回で回答済	回答済

■ 特定原子力施設監視・評価検討会（第100回）資料2-2で頂いたコメントに対する対応

分類	コメント	回答	回答可能時期
耐震評価	・はざとり波が一部周期帯で1/2Ssを超えていることから、優先順位を考慮し、その健全性を早期に確認すること。また、現在審査中のB+設備について、本影響の評価を行うなど、耐震設計において考慮すること（規制庁）	第107回で回答済	回答済

3月16日地震に関する過去のコメント回答

■ 特定原子力施設監視・評価検討会（第101回）資料3-2で頂いたコメントに対する対応

分類	コメント	回答	回答可能時期
耐震評価	・新設設備の評価について、波及的影響評価（Ss900）と機能維持評価の内容は異なることから、今後の審査において、個別にその内容を比較した上で除外できることを説明すること。また、「新設B＋クラスの対応方針」における「評価」内容が「1/2Ss450機能維持」と異なる場合は、その差異を明確にすること（規制庁、山本教授）	第102回で回答済 個別の評価は今後の審査の中で説明	回答済
耐震評価	・剛構造の設備に対して3月16日地震の影響がないとしているが、はぎとり波の50Hz周辺においても1/2Ssを超過しているため、その根拠を示すこと（規制庁）	第102回で回答済	回答済

■ 特定原子力施設監視・評価検討会（第102回）資料3-3で頂いたコメントに対する対応

分類	コメント	回答	回答可能時期
PCV水位	・3号機原子炉格納容器内の水位について、8月上旬以降緩やかな水位低下が続いており、注水量を増加させたとのことだが、今後推定原因等を説明すること（規制庁）	第105回で回答済	回答済
PCV水位	・格納容器の漏えい箇所の推定に関して、格納容器内（S/C含む）の水位だけではなく、原子炉建屋側への漏えい状況（トリチウム移行量や滞留水の状況等）も踏まえ推定すること（高坂オブザーバー）		

【地震の状況】

- ・発生日時 : 2022年3月16日（木）午後11時36分頃
- ・6号機加速度 : （水平）221.3ガル （垂直）202ガル
- ・規模・立地町震度 : マグニチュード7.4 震度6弱（大熊町、双葉町）
- ・警戒事態事象（AL）該当判断 : 3月16日午後11時52分
（3月17日午後7時15分に通常の監視体制に移行）

【対応状況】

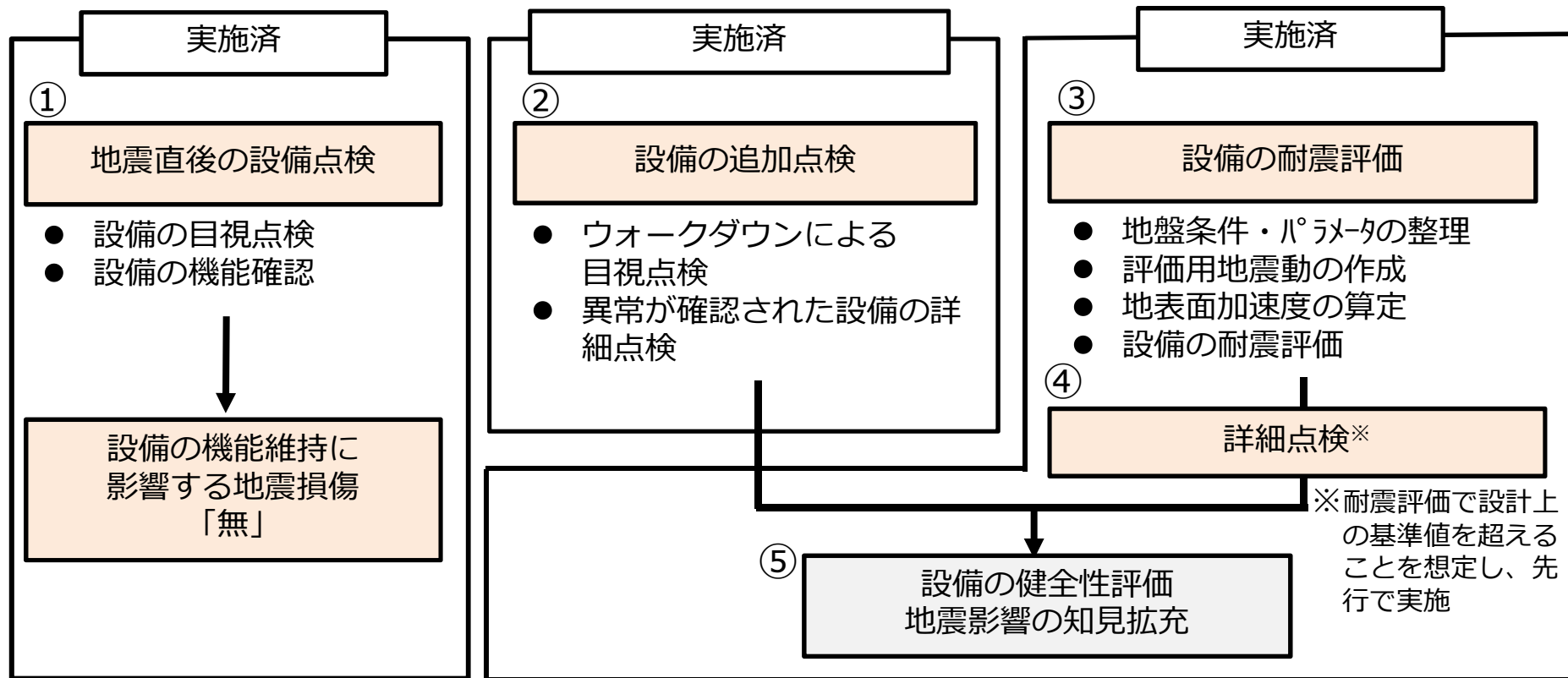
地震直後の確認においては、機能に影響を及ぼすような損傷・漏えい等の異常の有無に着目して実施し、廃炉作業に必要な安全機能に大きな異常がないことを確認したものの、一部の設備において地震の影響（水漏れ、コンテナ転倒、タンクのずれ等）があったことを踏まえ、2021年2月13日地震の対応と同様に設備点検を実施した。

- 3月16日地震に対する耐震評価で設計上の基準値を超えることが想定されたため、2月13日地震※の際に評価対象として抽出した設備について、先行で詳細点検を実施し、2022年12月下旬に点検完了した
- 機器の耐震評価は、2023年8月に完了。一部の機器で設計上の基準値を上回っていることを確認した
- 耐震評価で設計上の基準値を上回った機器は、先行して実施した詳細点検において全て点検済であることを確認した

※：この資料では、2022年3月16日の地震を「3月16日地震」、2021年2月13日の地震を「2月13日地震」と記載

3月16日地震に対する耐震評価、詳細点検

- 地震直後の設備点検 (①)、地震の影響が及ぶ可能性のある部位に着目した点検 (②) を実施
- 3月16日地震の観測データ (はぎとり波) を用いて耐震評価を実施 (③)
- 耐震評価で詳細点検が必要となった設備の詳細点検 (④) については、②にて実施済みであることを確認



耐震評価及び詳細点検 結果

- 設計上の基準値を上回った3設備を含め、全ての設備の詳細点検を行った結果、設備に異常は無く健全であることが確認されたことから、設備の実力としては3月16日地震に対する耐震性を有していることが確認された。

系統	機種	耐震評価結果	詳細点検結果	回答時期
①淡水化装置	逆浸透膜装置	設計上の基準値以内		今回ご報告
②使用済セシウム吸着塔 仮保管施設	吸着塔	設計上の基準値以内		今回ご報告
③使用済セシウム吸着塔 一時保管施設	吸着塔	設計上の基準値以内		今回ご報告
④多核種除去設備	処理カラム交換用クレーン	詳細点検で確認	異常なし	今回ご報告
⑤雑固体廃棄物焼却設備	排ガス冷却器	詳細点検で確認	異常なし	今回ご報告
⑥増設雑固体廃棄物焼却設備	焼却炉室機器共通架台	詳細点検で確認	異常なし	第107回にて報告済
⑦貯留設備	Bエリアタンク	設計上の基準値以内		今回ご報告
	Dエリアタンク			
	H4北エリアタンク			
	H8エリアタンク			
⑧滞留水移送設備	3号機タービン建屋設置 弁スキッド	設計上の基準値以内		第107回にて報告済
⑨燃料プール浄化系設備	6号機熱交換器	設計上の基準値以内		今回ご報告

- 3月16日地震に対する耐震評価（※）を実施したところ、3設備で設計上の基準値を上回りましたが、詳細点検の結果、設備に異常は無く健全であることが確認されたことから、設備の実力としては3月16日地震と同等の地震に対して耐震性を有することが確認されました。

※：耐震評価は、設計時に用いる評価手法であり、実際の設備の実力より厳しめの結果となる。評価で設計上の基準値を上回ったとしても、実際の設備が損傷しているとは限らない。

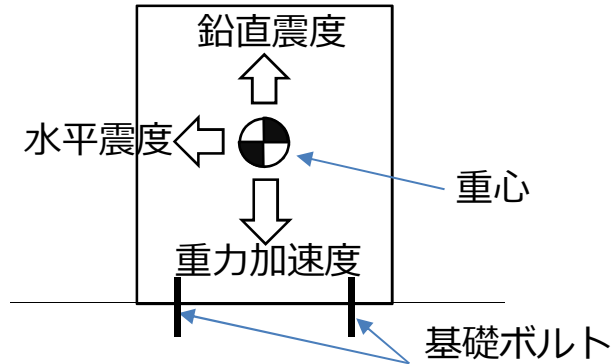
参考資料 1

3月16日地震に対する耐震評価結果及び詳細点検結果の補足

①淡水化装置（逆浸透膜装置）の耐震評価

評価対象：汚染水処理設備淡水化装置（RO-3）

評価方法：評価により得られた地表面加速度を用いて、機器の転倒評価および基礎ボルトの応力評価を実施



※Mはモーメントを示す

機器名称	評価部位	評価項目	水平震度 1.2ZPA 〔G〕	鉛直震度 1.2ZPA 〔G〕	算出M ／許容M	評価
逆浸透膜装置 (RO-3)	機器	転倒	0.59	0.26	2.079	×

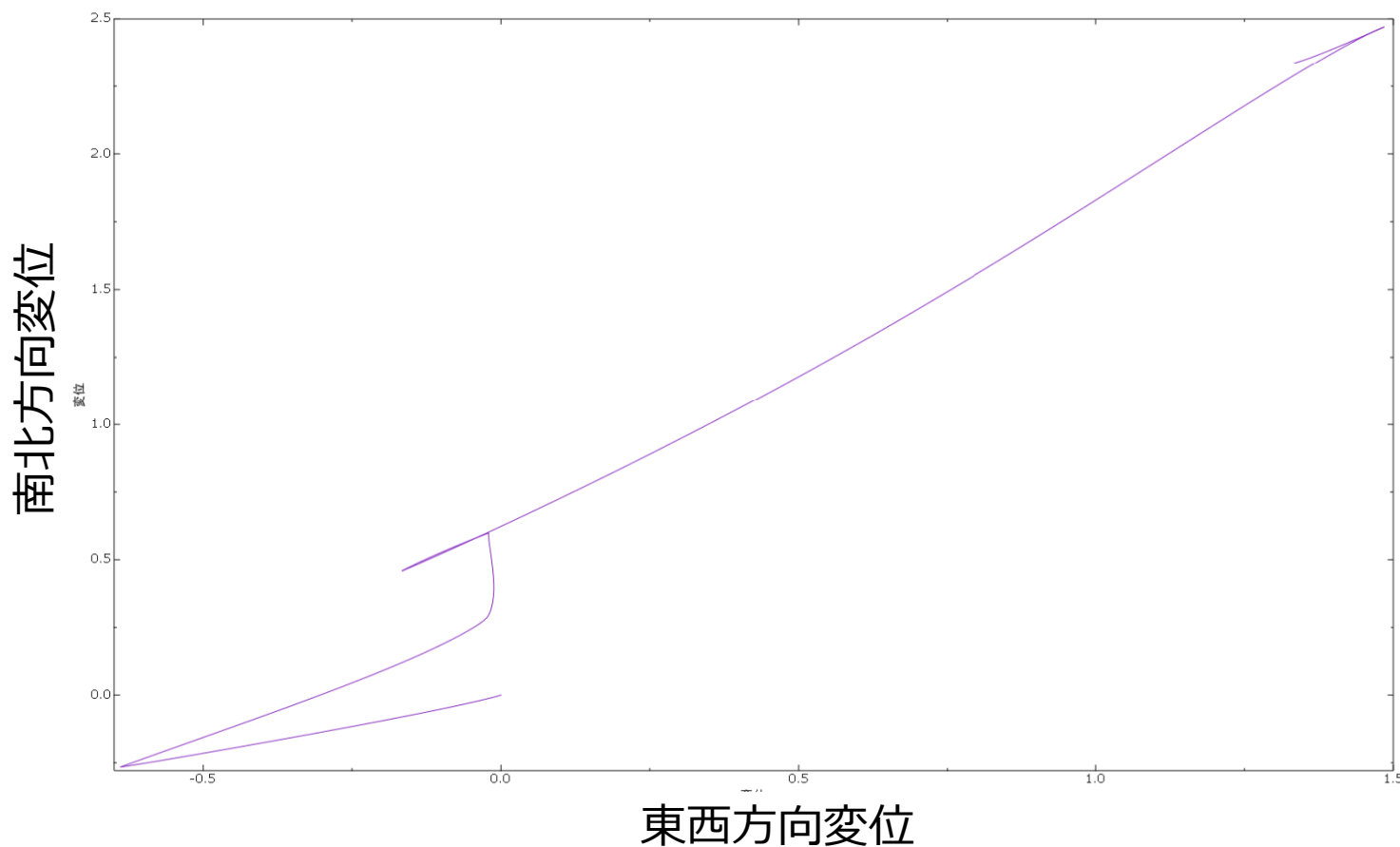


設計上の基準値を上回るため、基礎ボルトの強度評価を実施

機器名称	評価部位	評価項目	水平震度 1.2ZPA 〔G〕	鉛直震度 1.2ZPA 〔G〕	算出応力 ／許容応力	評価
逆浸透膜装置 (RO-3)	基礎 ボルト	せん断	0.59	0.26	0.03	○
		引張			0.08	○

②使用済セシウム吸着塔仮保管施設の耐震評価

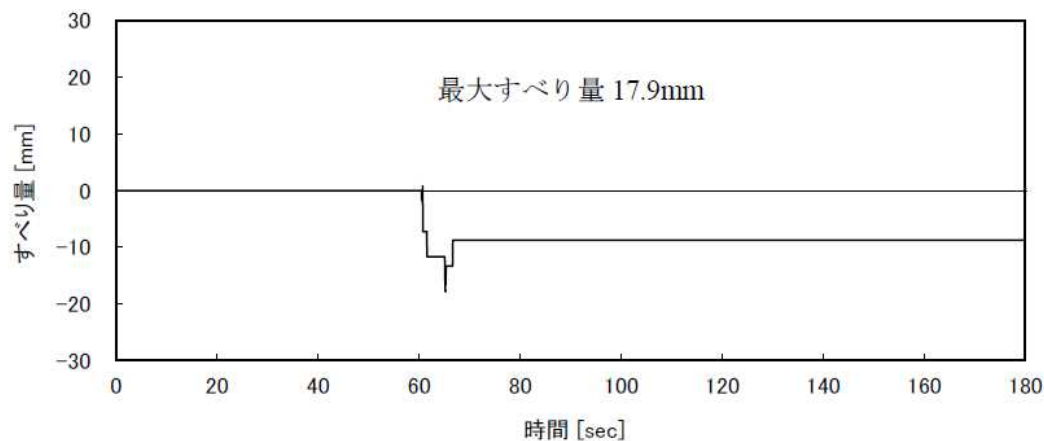
使用済セシウム吸着塔仮保管施設に保管するモバイル式処理装置の吸着塔に対し、3月16日の観測データ（はぎとり波）を入力し、摩擦係数0.4としてズレの大きさを評価した。評価した結果、ズレは2.89mm（東西1.49mm、南北2.48mm）であり、設備に影響を与えるズレではなかった。



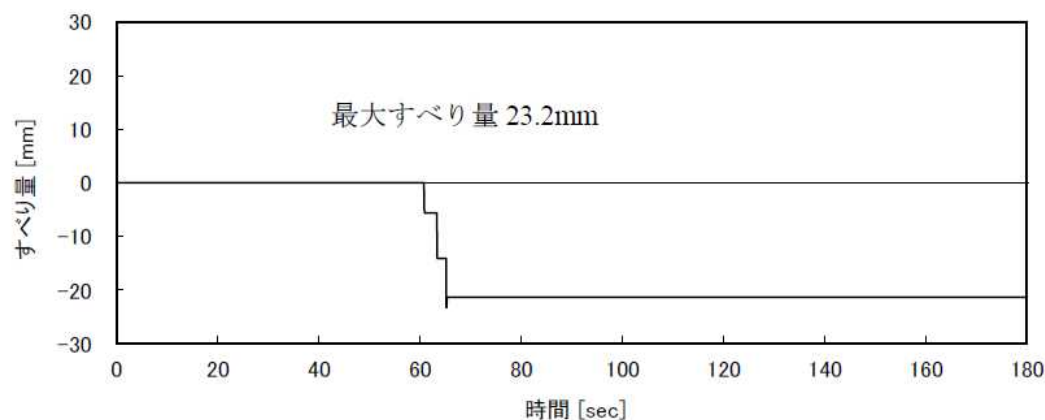
③使用済セシウム吸着塔一時保管施設の耐震評価

使用済セシウム吸着塔一時保管施設に保管するボックスカルバート（高性能容器HICを格納）に対し、3月16日の観測データ（はぎとり波）を入力してズレの大きさを評価した。評価した結果、ズレは東西17.9mm、南北23.2mmであり、東西・南北のどちらについても設計上の基準値450mmを下回ることを確認した。

東西方向



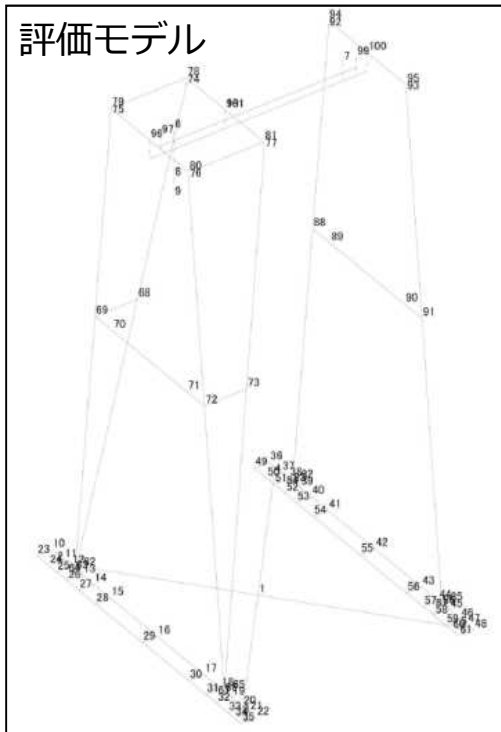
南北方向



④多核種除去設備（処理カラム交換用クレーン）の耐震評価

処理カラム交換用クレーンに関し、建屋応答解析にて得られる加速度を用いて耐震評価を実施。（多質点系梁モデルでの応答スペクトル解析、解析コードはMSC Nastran）

耐震評価の結果、部材の評価値が設計上の基準値を上回ることを確認した。



評価結果

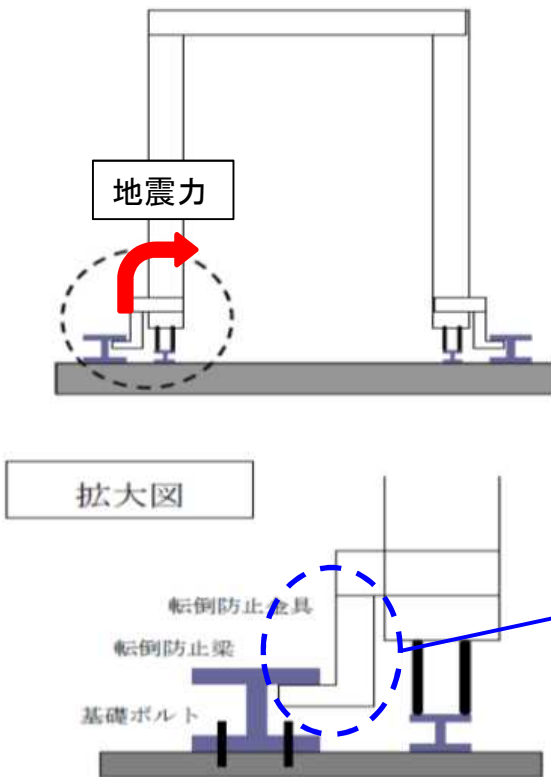
	部材	連結ボルト	転倒防止装置	レールクランプ	転倒防止ガイド	転倒防止基礎ボルト	走行レール基礎ボルト	評価
L剛脚側	1.08	1.32	1.87	3.29	6.11	2.65	2.24	×
R揺脚側	1.02	1.20	1.70	3.51	5.56	2.41	2.38	×

・ 値は発生応力／許容応力の比であり、1以上で設計上の基準値を上回る結果となる。

④多核種除去設備（処理カラム交換用クレーン）の詳細点検

評価事項	損傷	詳細点検項目	確認事項	点検結果
転倒防止梁及び転倒防止金具の影響	溶接部の割れ	浸透探傷検査（PT）	溶接部等の割れを確認する	有意な指示模様無し
	変形	詳細目視	変形による確認	各変形等無し
せん断力（水平方向）による基礎ボルトの影響	基礎ボルトの割れ、欠陥	超音波探傷検査（UT）	垂直法により欠陥の有無を確認	有意な指示エコー無し※
引張力（垂直方向）による基礎ボルトの影響	基礎ボルトの伸びによる緩み等	打診試験	伸びが発生した場合緩みが確認される事を想定し、打診音で違いを確認する。	打診音での緩み確認せず※

※ 3月16日地震時のクレーン停止位置の基礎ボルト実施



転倒防止金具
P T結果



基礎ボルト

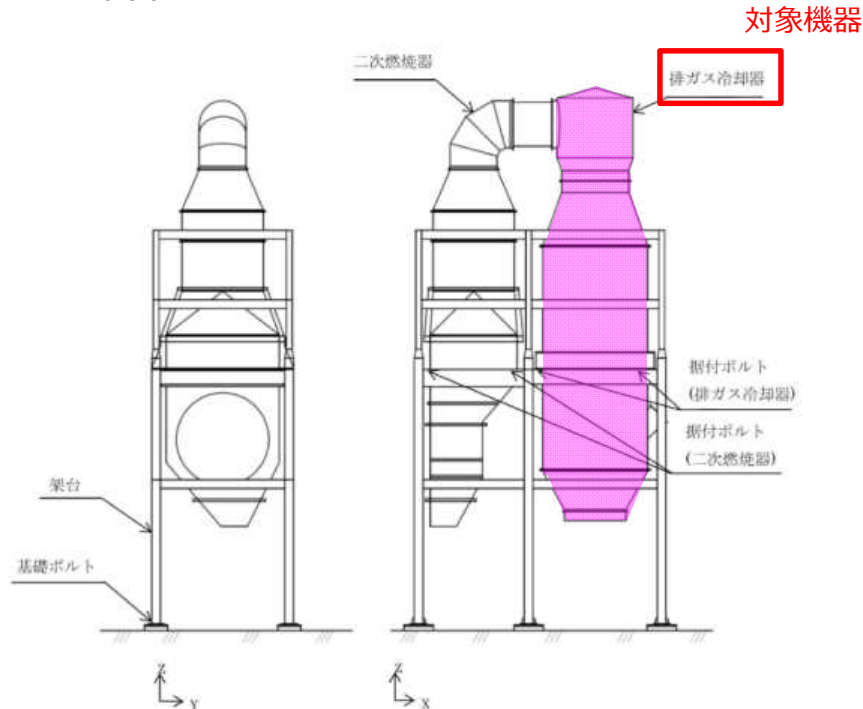


打診試験結果

⑤ 雑固体廃棄物焼却設備（排ガス冷却器）の耐震評価

評価対象：排ガス冷却器

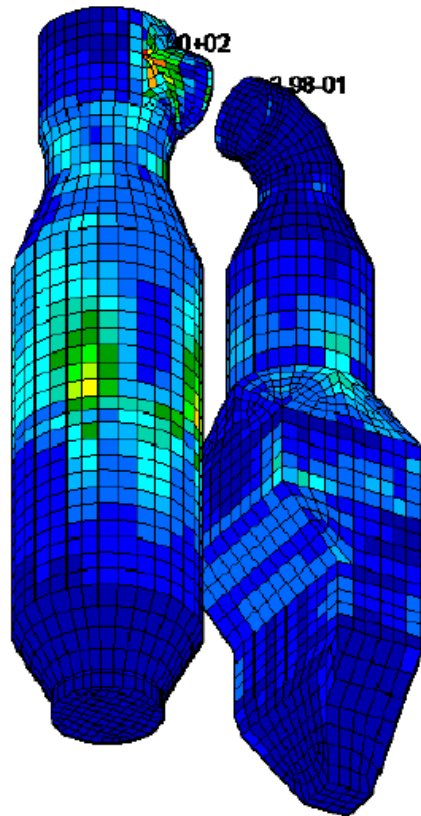
評価方法：はぎとり波を使用し作成した床応答スペクトルを用い、汎用構造解析プログラム ABAQUSにて評価を実施。



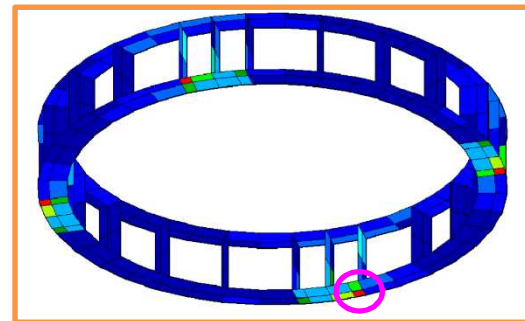
部材	材料	応力の種類	算出応力 ／許容応力	評価
排ガス冷却器	SS400	一次一般膜	0.75	○
		一次	2.47	×

⑤雑固体廃棄物焼却設備（排ガス冷却器）の耐震評価

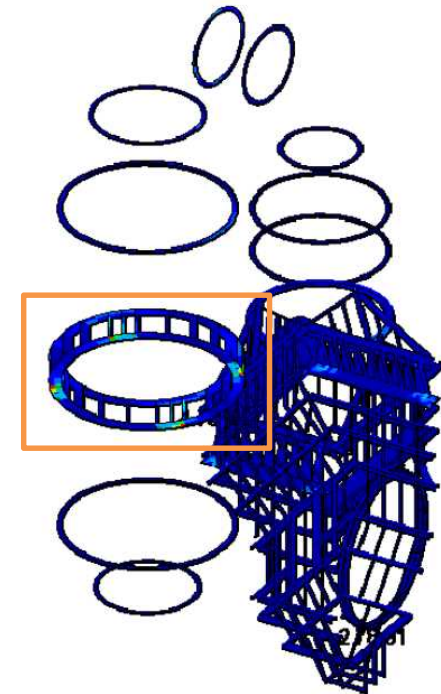
■ 最大応力発生箇所



<容器（外面）>



一次応力最大箇所

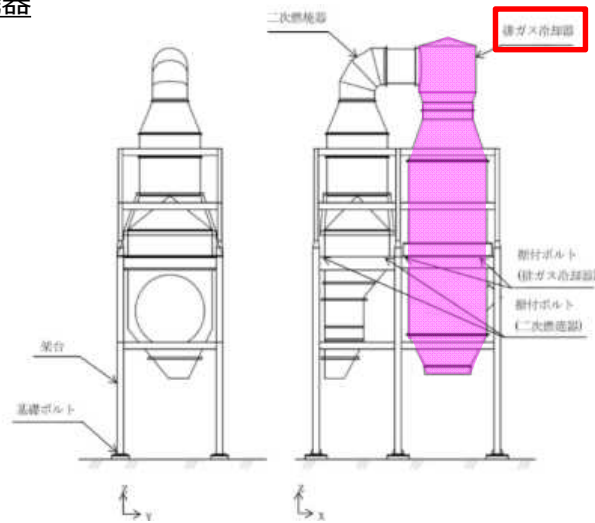


<リブ（外面）>

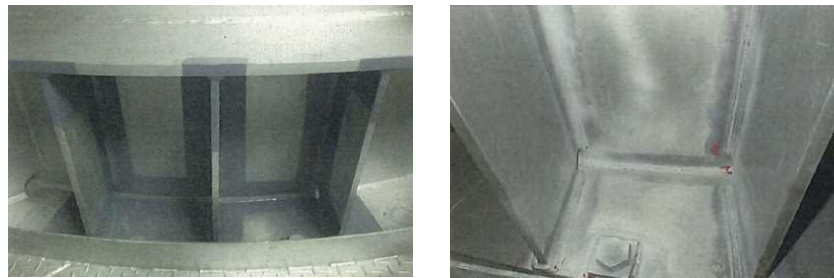
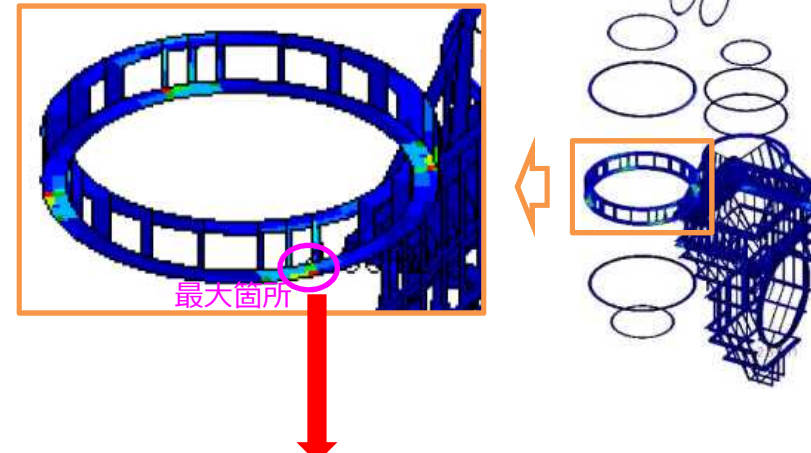
⑤雑固体廃棄物焼却設備（排ガス冷却器）の詳細点検

評価事項	損傷	詳細点検項目	確認事項	点検結果
排ガス冷却器の外力による影響	補強リブの割れ、変形	浸透探傷検査（PT） 詳細目視	欠陥の有無を確認 塗装の剥がれ等の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・有意な指示模様無 ・変形、塗装の剥がれ等異常無

対象機器



耐震評価結果



補強リブのPT結果



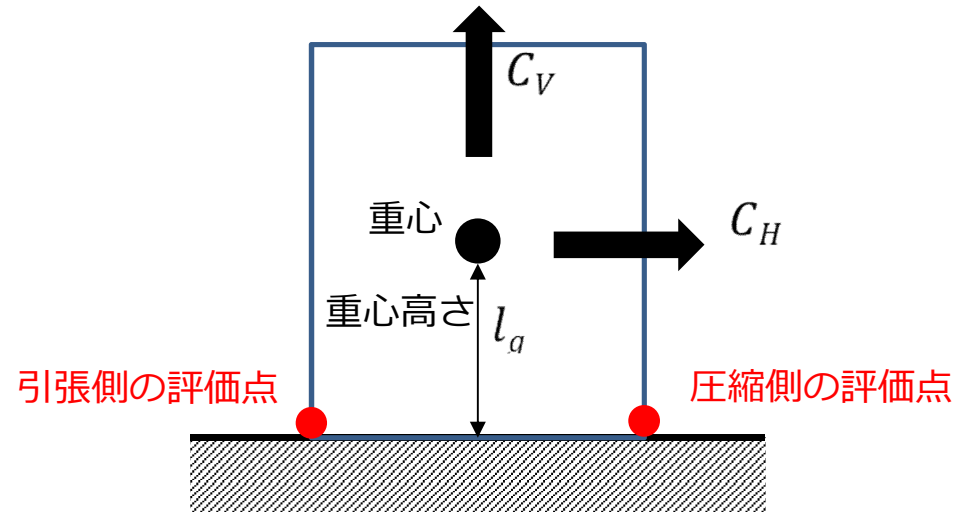
全体図※（最大箇所）

※：写真は2月13日地震後の点検時のもの

⑦貯留設備（B、D、H4北、H8エリア）の耐震評価（応力評価）

- 引張と圧縮のうち、より大きい側と設計上の基準値を比較評価する※。評価にあたってはタンク底面の滑りを考慮する。

※：『JEAC4601-2008原子力発電所耐震設計技術規定』に基づく



エリア	タンク容量	算出応力 / 許容応力	評価
B	1,330m ³	0.37	○
B	700m ³	0.35	○
D	1,000m ³	0.33	○
H4北	1,200m ³	0.37	○
H8	1,000m ³	0.33	○

⑦貯留設備（B、D、H4北、H8エリア）の耐震評価（転倒評価）

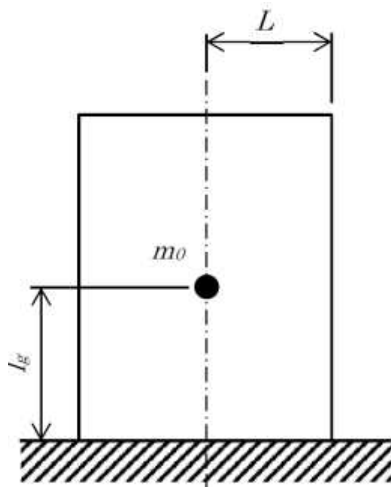
- 水平設計震度から転倒モーメントを求めて、安定モーメントと比較評価する。評価にあたってはタンク底面の滑りを考慮する。
(実施計画：Ⅱ-2-5-添12-63, 64に基づく)

• 転倒モーメント

$$M_1 = \mu(1 + C_V)m_0gl_a \text{ [N} \cdot \text{m]}$$

• 安定モーメント

$$M_2 = (1 + C_V)m_0gL \text{ [N} \cdot \text{m]}$$



エリア	タンク容量	転倒モーメント / 安定モーメント	評価
B	1,330m ³	0.52	○
B	700m ³	0.69	○
D	1,000m ³	0.55	○
H4北	1,200m ³	0.37	○
H8	1,000m ³	0.33	○

⑦貯留設備（B、D、H4北、H8エリア）の耐震評価（座屈評価）

- 許容座屈応力に対する比の和が1を超えているかを評価※。評価にあたってはタンク底面の滑りを考慮する。

※：『JEAC4601-2008原子力発電所耐震設計技術規定 4.2.3.1(1)c.』に記載のクラスMC容器の座屈評価を準用

● 評価式

$$\frac{\alpha(\sigma_{x2} + \sigma_{x3})}{f_c} + \frac{\alpha \times \sigma_{x4}}{f_b} \leq 1 \quad \alpha : \text{安全率}$$

軸圧縮荷重に対する
座屈応力との比較

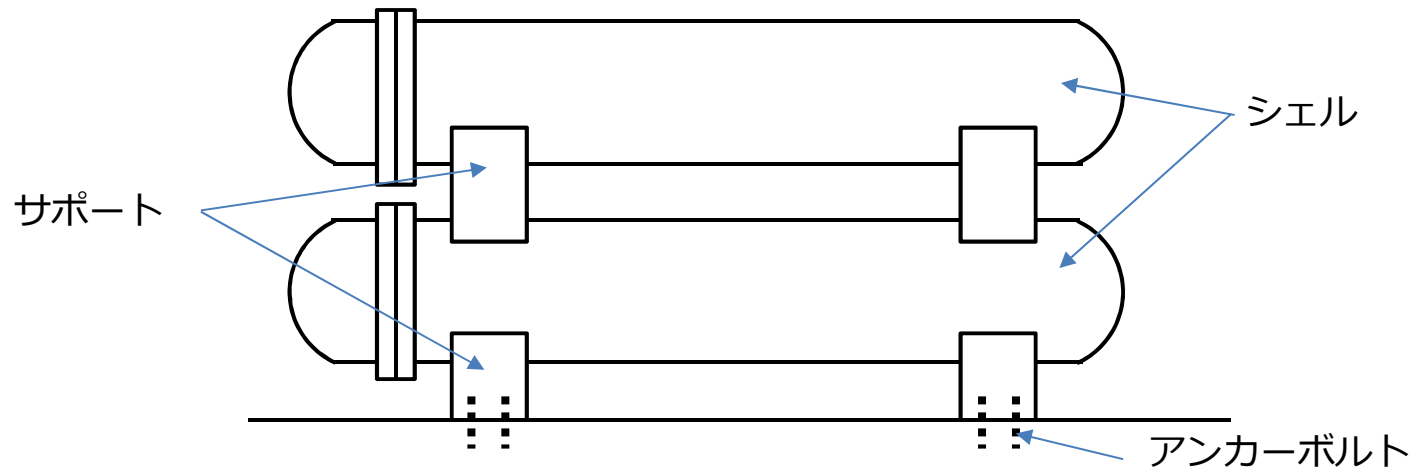
曲げモーメントに対する
荷重の座屈応力との比較

エリア	タンク容量	座屈評価	評価
B	1,330m ³	$\frac{\alpha(\sigma_{x2} + \sigma_{x3})}{f_c} + \frac{\alpha \cdot \sigma_{x4}}{f_b} = 0.39 > 1$	○
B	700m ³	$\frac{\alpha(\sigma_{x2} + \sigma_{x3})}{f_c} + \frac{\alpha \cdot \sigma_{x4}}{f_b} = 0.44 > 1$	○
D	1,000m ³	$\frac{\alpha(\sigma_{x2} + \sigma_{x3})}{f_c} + \frac{\alpha \cdot \sigma_{x4}}{f_b} = 0.36 > 1$	○
H4北	1,200m ³	$\frac{\alpha(\sigma_{x2} + \sigma_{x3})}{f_c} + \frac{\alpha \cdot \sigma_{x4}}{f_b} = 0.42 > 1$	○
H8	1,000m ³	$\frac{\alpha(\sigma_{x2} + \sigma_{x3})}{f_c} + \frac{\alpha \cdot \sigma_{x4}}{f_b} = 0.35 > 1$	○

⑨燃料プール冷却浄化系設備（6号機熱交換器）の耐震評価

評価対象：6号機熱交換器

評価方法：評価により得られた設置床の加速度を用いて、建設時工認耐震計算書「IV-2-2-3-2-1熱交換器の耐震性についての計算書」に従い評価を実施。



評価部位		材料	算出応力 /許容応力	評価
シェル		SGV42	0.32	○
サポート		SS41	0.03	○
アンカーボ ルト	引張	SS41	0.11	○
	せん断		0.12	○

参考資料 2

地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について

- 地震後パトロール及びその後の点検において確認されている主要な不具合事象および対応状況は、以下の通り。「2023年3月20日 特定原子力施設監視・評価検討会（第106回）資料6-4」からの**変更（進捗）箇所を朱書きで示す**

分類	事象	確認時期※	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
1~6号機 原子炉建屋	建屋健全性	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 5・6号機は、設置されている地震計の観測記録から3月16日に発生した地震による揺れは、昨年2月13日の地震よりやや大きいことを確認した 1~4号機については、臨時点検を3月17日に行い、外観上の変化が生じていないことを確認 3号機原子炉建屋に設置した地震計の最大加速度値は、建屋構造や地震計の設置位置が異なるために単純に比較できるものではないが、3号機の最大加速度値は5・6号機と比べて大きく変わらな いと評価 3号機原子炉建屋を代表として地中の観測記録を用いた建屋の地震応答解析を行った結果、耐震壁のせん断ひずみが評価基準値に対して十分な余裕があることを確認 <p>今後はこのシートとは切り離し、健全性確認を進めていく</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1~3号機原子炉建屋についてはデブリ取り出し完了までの長期にわたって建屋健全性を確認していく必要があるため、建屋状態の情報を更新し、必要な性能（耐震安全性等）を有していることを継続的に確認していく 昨年2月13日地震から継続となるが、高線量エリアにおける無人・省人による調査方法の検討や、建屋構造部材の経年劣化の評価方法の検討、地震計等を活用した建屋全体の経年変化等の傾向確認を行っていく なお、2021年度に有人による原子炉建屋内調査を実施した（3号機：5月、1・2号機：11月~12月）

※最初の事象を確認した時期（2022年）

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (2/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
1~6号機 原子炉建屋	4号機 原子炉 建屋建屋カ バー建屋内で の鉄骨補助部 材落下	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 午前6時29分 カバー建屋において、鉄骨補助部材の落下を確認 構造上、主要な柱・梁部材では無いことから、建屋カバーへの影響は無いことを確認 なお、当該エリアは立入禁止措置済 当該部材の取り換えを実施し、2023年3月に完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	4号機 原子炉 建屋建屋カ バー建屋 外 壁での一部損 傷	4月1日	<ul style="list-style-type: none"> カバー建屋において、北側外壁の一部損傷を確認 外壁を取り付ける指示部材の一部が損傷と推定 カバー架構の耐震性に影響は無い（立入禁止措置済み） 9月末に外壁復旧完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	6号機 原子炉 建屋北側二重 扉の開放操作 時の異音	3月23日	<ul style="list-style-type: none"> 6号機原子炉建屋北側二重扉の外側扉を開放しようとロックを解除させる「開」ボタンを押したところ、異音を確認 現場を確認したところ、扉の内部機構のシャフトが変形し扉の枠部材と干渉していることを確認 現在当該扉の使用を規制し、他の扉を使用するよう周知済 扉の修理を実施し、5月に完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (3/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
原子炉冷却設備	1号機PCV水位低下	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 1号機のPCV水位は、地震発生直後に一時的に約20cm低下（3月17日）し、その後3月22日までに水位が約20cm低下していることを確認 水中ROVの調査に必要な水位を確保するため、注水量を増加させ水位の上昇及び水位を維持する 3号機のPCV水位は、地震前後で長期的に比較すると、緩やかに低下している傾向もあり、監視を継続中。6月14日より注水停止試験を実施し、PCV水位低下の傾向を確認 なお、原子炉注水設備は運転を継続し、地震後のプラントパラメータ（原子炉格納容器温度、PCVガス管理設備のダストモニタ等）に有意な変動がみられていないことから、燃料デブリの冷却状態に問題はなく、また外部環境への影響はない 	<ul style="list-style-type: none"> 1号機：水中ROVの調査に必要な水位を確保するため、注水量を調整し、水位を維持していく 1号機及び3号機の原子炉格納容器の水位について監視を継続する

今後はこのシートとは切り離し、水位監視や内部調査を進めていく

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (4/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
使用済燃料プール設備	5号機 使用済燃料プールの設備自動停止	3月16日	<ul style="list-style-type: none"> 午後11時34分 使用済燃料プール冷却ポンプ自動停止 (※午後11時34分頃の地震に伴い停止) 冷却停止中におけるプール水温度が、運転上の制限である65℃に到達する時間は約11日と評価 3月17日午前4時8分 運転を再開 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	2号機 使用済燃料プールの設備手動停止	3月16日	<ul style="list-style-type: none"> 午後11時59分 SFPスキマサージタンク水位低下により手動停止。隔離弁閉により水位低下停止 冷却停止中におけるプール水温度が、運転上の制限である65℃に到達しないと評価 3月17日午前7時38分 運転を再開。現場確認により、運転状態に異常がないことを確認 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	5号機、6号機の使用済燃料プール、および共用プールからの溢水	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 5号機使用済燃料プール、6号機使用済燃料プール、共用プールでは、プール水の揺れ (スロッシング) に伴うものと推定される水溜りを数か所確認 午前1時5分 1~4号機、5・6号機、共用プールのプール水位に低下が無いことを確認 その後、水溜りの拭き取りを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	3号機 廃棄物処理設備建屋1階 配管貫通部からの水の流入	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> SFP1次系ろ過脱塩器 (B) の入口配管貫通部から鉛筆1本分の水の流入、および、同系出口配管貫通部で1秒間に5~6滴の流入を確認。なお、流入した水は堰内に留まっている。 ろ過脱塩器 (B) 室内部に水たまりを確認。使用済み燃料プールの水の揺れによりスキマサージタンクへ流入した水が配管から流出したものと判断 3月19日 水の流入が停止したことを確認し、流入した水について拭き取りを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (5/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
水処理設備	陸側遮水壁設備の停止	3月16日	<ul style="list-style-type: none"> 午後11時37分頃 冷媒を供給するポンプが過電流を検知し停止。これにより陸側遮水壁設備が自動停止 現場調査の結果、絶縁抵抗値に問題が無いことを確認 3月17日 健全性を確認し、設備の運転再開 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	既設淡水化装置 (RO-3) ウルトラフィルタ洗浄水槽の底部固定ボルト部からの漏えい	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 午前2時45分 ウルトラフィルタ洗浄水槽の底部固定ボルト部から、鉛筆2本の漏えいを確認 水槽の隔離を実施。漏えいは堰内に留まっている 漏えい範囲は約6m×6m×深さ1mm 漏えいした水は淡水化处理前水 同日 淡水化处理水漏えい停止を確認 4月6日 水槽の応急処置が完了し、淡水化装置 (RO-3)の運転再開 9月に水槽の交換が完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	淡水化装置 (RO-2) 亜硫酸ソーダタンクスロッシングによる堰内漏えい	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 午前4時30分頃 亜硫酸ソーダタンクのスロッシングにより漏えいしていることを確認。なお、漏えいは堰内に留まっている 漏えい範囲は約1m×1m×1mm 3月18日 堰内漏えいについて拭き取り清掃を行い異常の無いことを確認 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (6/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
水処理設備	サブドレン集水タンクNo.7接続配管からの漏えい	3月20日	<ul style="list-style-type: none"> 午前7時22分頃 サブドレン集水タンクNo.7接続配管から水の漏えい（鉛筆1本程度）を確認 漏えい範囲は、堰内に留まっている 上流側の移送ポンプを停止したところ、配管保温材から1滴/5秒の滴下に収まり、当該箇所の養生を実施 サブドレン集水タンクNo.1～7の水位に異常な変動はなし 3月21日 堰内の水を分析した結果、雨水と判断 その後、保温板金を外し配管状態を確認したが、破損や漏えい等は確認されなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	サブドレンピットNo.23に油らしき物を確認	3月21日	<ul style="list-style-type: none"> 午前11時39分 2号機タービン建屋西側にあるサブドレンピットNo.23のサンプリングを実施した際、採水容器に油らしき物を確認 当該ピットの油分分析を行ったところ9.8mg/Lの油分を検出 なお、サブドレンサンプルタンクにおいては、排水前に分析を行い異常がないことを確認した上で排水を行っており、直近の排水時における油分分析結果は検出限界値未満（検出限界値0.3mg/l）であることを確認済 サブドレンピットNo.23及び連結管で繋がっているNo.24～No.27と中継1タンク系統の汲み上げを停止 中継タンクNo.1の油分分析をした結果、検出限界値（0.3mg/L）未満であることを確認 午後2時36分 No.23～No.27を除く中継タンクNo.1系統の汲み上げを再開 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済 今後も、油分の検出状況を確認しながらサブドレンの稼働を行う

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (7/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
汚染水処理設備 (タンク)	中低濃度タンクの位置ずれ	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> • 午前3時0分 ストロンチウム処理水タンク(H8タンクエリアのA3タンク) に位置ずれを確認。なお、連結配管からの漏えい、およびタンク水位低下がないことを確認 • 午前5時13分 高性能ALPSサンプルタンク(A,C) および増設ALPSサンプルタンク(A,C) において、位置ずれを確認。なお、漏えい等が無いことを確認 • その後、発電所構内の複数のタンクエリアにおいて、多数の汚染水タンクが位置ずれしていること、および堰内の防水塗装に破損があることを確認 • なお、タンクは基礎固定せず滑動する設計 • 中低濃度タンク(1,074基) について外観点検を実施した結果、漏えいや変形が無いことを確認 • 160基のタンクに位置ずれを確認(Dエリアの他、多数のエリアに確認) • 保温板金を取り付いた状態で連結管の変位を確認した結果、256箇所中6箇所にメーカー推奨変位値を超過しているものを確認 • その後、4月1日までに保温板金を取り外して連結管の変位を確認した結果、256箇所中17箇所にメーカー推奨変位値を超過しているものを確認 • なお、メーカー推奨変位値とは、変位が生じても安全に使用できる目安値であり、設計値はこれの約2~4倍の裕度を有している • メーカー推奨変位値を超過したものについては、連結管を取り外し、閉止板の取り付けを実施 	<ul style="list-style-type: none"> • 2月13日地震以降、特異的な位置ずれ量が確認されたDエリアの要因分析および今回の結果も踏まえ恒久対策を検討・実施していく <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 今後はこのシートとは切り離し、地震の影響を踏まえて対応を進めていく </div>

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (8/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
汚染水処理設備 (タンク)	H2エリアタンクC3-D3タンク間の連結管付根部の水たまり	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 当該連結管付根部の下部に水たまりを確認 付根部からの滴下はなく、堰内に留まっている 水の分析の結果、雨水と判断 拭き取りを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	Eタンクエリア内堰の雨水水位の低下	3月20日	<ul style="list-style-type: none"> タンクエリアパトロールにおいて、内堰の雨水の水位が、低下していることを確認 水位測定場所近傍に漏えい痕らしきものを確認。なお、Eタンクエリアのタンク水位に変化がないこと、Eタンクエリア以外のタンクエリアの内堰の雨水水位の低下がないことを確認 建屋滞留水の移送状況について、パトロール及び警報監視において、漏えい等の異常なし 3月21日 内堰の雨水の水位が低下していることを確認 水位測定場所近傍の漏えい痕の確認された場所については補修作業を実施中。現状、漏えいはない 4月1日 補修完了。漏えいなし確認 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	Fエリアタンクフランジ部からの水の滴下	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> Fエリアのタンク6基において、フランジ部から2秒に1滴、水が滴下していることを確認 滴下した水は堰内に留まっている 同日 滴下箇所の養生が完了(11カ所) 3月30日 止水処理を実施し、滴下が無いことを確認 4月7日 経過観察を行い、補修箇所から滴下がないことを確認 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (9/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
汚染水処理設備 (タンク)	J 5・G 6タンクエリア堰内の防水塗装めくれ	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 2時50分 J 5タンクおよびG 6タンクにて、堰内防水塗装めくれを確認 当該タンクエリアの周囲に漏えい等は確認されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 2023年9月下旬完了見込み
	FタンクエリアK 5タンク近傍における雨樋の破損	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> FタンクエリアK 5タンク近傍にある雨樋の破損を確認 雨水用の雨樋であり、堰内に留まっており、問題なし 5月に雨樋の修理完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	J 8エリアタンクの雨樋配管の破損	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> J 8エリアタンクの雨樋配管の破損を確認 雨水用の雨樋であるが、雨水は堰内に留まるため問題なし 雨樋配管の修理完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	H 6 (Ⅱ) エリア雨水カバー支柱の転倒	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> H 6 (Ⅱ) エリア雨水カバー支柱の転倒を確認 雨水用のカバー支柱であるが、他の支柱で雨水カバーを支えていることを確認 現時点で問題なし 支柱の交換補修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	増設多核種除去設備一時貯留タンクの雨樋外れ	3月18日	<ul style="list-style-type: none"> 雨樋の外れを確認 雨水用の雨樋であるが、雨水は堰内に留まるため問題なし 雨樋配管の修理完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	ALPS処理水等タンクの一部 水位計測範囲逸脱	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> タンク水位計指示値不良38台確認 このうち27台は初期化作業により復旧 午前4時31分 ALPS処理水等タンクの一部の水位計に水位計測範囲逸脱しているタンクからの漏えい等の異常がないことを確認 その後、1台が自然に復旧 予備品と交換修理等を実施し、38台全数を復旧 復旧した水位計の他、全ての水位計の指示について異常のないことを確認 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (10/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
その他のタンク等	サブドレン集水タンクNo. 1 近傍床面の防水塗装剥がれ	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> タンク近傍床面の防水塗装に剥がれを確認。なお、タンク機能に影響はない その後、タンクの滑動等がないことから、地震の影響ではないと判断 補修を実施し、12月16日完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	雨水を保管しているノッチタンクからの漏えい	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 4時10分 ろ過水設備の西側にある雨水を保管しているノッチタンクからの漏えいを確認 漏えいした水を分析し、雨水と判断 雨水排水を行い、当該タンクを2023年1月27日に撤去 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	雨水処理設備 モバイルRO膜装置雨水受入タンク(A)の位置ずれ	4月7日	<ul style="list-style-type: none"> モバイルRO膜装置雨水受入タンク(A)の位置ずれを確認(溶接型タンク) 位置ずれは北方向へ約20mm 雨水タンクについて、当該タンク以外全数を調査したが、位置ずれは、当該タンクのみであることを確認 当該タンクのみ満水であり、スロッシングの影響と推定 タンク本体に損傷等なしを確認 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	健全性確認	3月17日～4月18日	<ul style="list-style-type: none"> 上記以外で3月16日地震影響による新たな異常なし確認 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
雨水水処理設備	雨水処理設備 モバイルRO膜装置雨水受入タンク(A) 受入配管からの水の滴下	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> モバイルRO膜装置雨水受入タンク(A) 受入配管から連続滴下していることを確認 内包水は雨水であることから、残水の回収を行い、滴下が停止したことを確認 なお、B系が使用可能なため、運用には支障なし 受入配管の点検を実施し、6月完了済み 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	雨水処理設備 淡水化RO膜ユニット(A)からの水の滴下	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 淡水化RO膜ユニット(A) A-1入口配管付近から内包水の滴下を確認(1分間に1滴) 滴下した水は堰内に留まっている 滴下した水がBG同等だったことから、拭き取りおよび袋養生を実施 なお、当該設備は現在停止中 水抜きを実施し、乾燥保管実施済み 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (11/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
廃棄物 保管施 設等	廃棄物の一時保管 施設の一時保管工 リアにおけるコン テナ転倒	3月17日	<p>【一時保管エリア a】</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンテナ6基が転倒し、内容物が出ていることを確認 • 内容物の詳細確認をした結果、4基が使用済保護衣、2基が鉄くずであることを確認 • 内容物の表面汚染密度はバックグラウンド相当 • 同日 転倒したコンテナは別のコンテナに入れ、積み直しを完了 <p>【一時保管エリア b】</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンテナ2基が転倒し、内容物が出ていることを確認 • 内容物は2基が使用済保護衣であることを確認 • 内容物の表面汚染密度はバックグラウンド相当 • 傾いているコンテナも数基確認 • 3月18日 転倒したコンテナは別のコンテナに入れ、積み直しを実施し、傾いているコンテナも積み直しを完了 <p>【一時保管エリア f】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3月16日地震の発生前に破損が確認されていたコンテナについて、破損の拡大を確認 • 内容物は使用済保護衣 • 内容物の表面汚染密度はバックグラウンド相当 • 3月23日 シートで養生実施 	<ul style="list-style-type: none"> • 対応完了済 • 今後も、作業安全上の安全対策を継続して実施する

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (12-1/17) **TEPCO**

分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
廃棄物 保管施設 等	雑固体廃棄物焼却設備自動倉庫(A)(B)内の廃棄物収納箱のずれについて	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 雑固体廃棄物焼却設備の自動倉庫内に保管してある廃棄物収納箱が、通常位置よりずれていることを確認 焼却炉は現在は年次点検中で起動していない 廃棄物収納箱が落下する恐れなし 作業用の足場を組み、位置修正を5月中旬までに実施 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	雑固体廃棄物焼却設備焼却炉耐火材剥離について	3月25日	<ul style="list-style-type: none"> 3月25日 焼却炉キルンA系の地震後動作確認(キルン本体の回転)を実施したところ、炉内で耐火材の落下音を確認 4月13日 内部を確認したところ、二次燃焼器の点検口に設置している耐火レンガが複数落下しており、割れにより交換が必要な耐火レンガも確認 二次燃焼器B、排ガス冷却器A,Bでも同様の事象を確認 耐火レンガ手配と並行し、焼却炉内詳細確認および補修実施中 B系は6月末、A系は7月中旬までに完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	雑固体廃棄物焼却設備 排ガス冷却器A/B据付ボルトの合いマークずれ	4月7日	<ul style="list-style-type: none"> 地震後の追加点検において、排ガス冷却器と排ガス冷却器支持架台の取合いである据付ボルトの合いマークが一部ずれていることを確認 ボルトトルク確認及び架台溶接部の健全性確認等を5月中に実施し、異常無し 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	雑固体廃棄物焼却設備 二次燃焼器～排ガス冷却器間伸縮継手の破損	4月18日	<ul style="list-style-type: none"> 地震後の炉内状況確認において、二次燃焼器～排ガス冷却器間伸縮継手について、中央部にある断熱材が炉内に落下していることを確認 B系は6月中旬、A系は7月中旬までに断熱材の交換および漏えい確認を実施済 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	増設雑固体廃棄物焼却設備 間仕切り壁耐火ボードの一部剥落	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 焼却炉室・廃棄物貯留ピット間仕切り壁の耐火ボードが一部剥落していることを確認 剥落した耐火ボードの修理を5月上旬までに実施 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	大型機器除染設備ロボットアーム(B)動作不能	3月25日	<ul style="list-style-type: none"> 大型機器除染設備ロボットアーム(B)の動作不能を確認 原因調査の結果、ケーブルの不具合であることが判明し、ケーブル交換後、動作確認異常無を6月上旬に確認 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (12-2/17) **TEPCO**

分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
廃棄物 保管施設 等	増設雑固体廃棄物 焼却設備 二次燃焼器・ス トーカ溶接部にお ける亀裂の確認他	6月18日他	<ul style="list-style-type: none"> • 6月18日に停止中であった増設雑固体廃棄物焼却設備の帕特ロールにて、下記の亀裂を確認 <ul style="list-style-type: none"> ①ロータリーキルン取合円筒の溶接部（北、南両側） ②二次燃焼器とストーカ取合の塞ぎプレート(南側) • 系統内はフロアにより負圧を維持していること及び亀裂部は焼却物と直接接する箇所ではないことから、当該亀裂部からの放射性物質の漏えいはない • 亀裂発生箇所はいずれも構造材本体ではないことから、構造強度に影響はない • 破面観察の結果、延性破壊の様態を示しており、3月16日地震にて大きな外力が負荷されたことにより生じたものと推定。なお、溶接部については強度不足の施工であったと推定され、その要因も寄与したものと推定 • また、上記を踏まえ、設備の水平展開調査を行い、下記の不具合を確認 <ul style="list-style-type: none"> ③ 接続ボルトの緩み、ボルト・座金の歪み ④ シムプレートのずれ ⑤ 外殻補強材溶接部のクラック ⑥ 炉内耐火材のクラック • 本設備の要求仕様である気密性および耐震Bクラスの強度を回復できるように修理を実施 • 修理完了し、10月17日より焼却を再開 	<ul style="list-style-type: none"> • 対応完了済

補足) 「2022年7月25日 特定原子力施設監視・評価検討会 (第101回) 資料5-1」で報告している内容について、3月16日地震関連として追加したもの

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (13/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応																																		
クレーン	運用補助共用施設キャスク搬出入エリア天井クレーン走行不能	3月18日	<ul style="list-style-type: none"> 運用補助共用施設（共用プール建屋）キャスク搬出入エリア天井クレーン（点検中）について動作確認をしたところ、走行動作ができないこと、および以下を確認 <ul style="list-style-type: none"> 目視点検において走行車輪用ギアカップリングのカバー2箇所へ亀裂 横行動作およびフックの巻上げ・巻下げ動作に問題ない 調査の結果、走行動作ができない原因は、走行ブレーキの不具合であると確認なお、共用プールの燃料冷却に問題はない また、6号機の使用済み燃料移送作業開始への影響は無い予定 不具合のあった走行ブレーキ部の点検・調整を実施し、動作することを確認 ギアカップリングの交換を完了 4月中に走行運転確認および法定検査を行い使用再開 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">ギアカップリング交換</td> <td>準備・足場設置</td> <td colspan="3">[Bar]</td> </tr> <tr> <td>ギアカップリング交換①</td> <td colspan="3">[Bar]</td> </tr> <tr> <td>ギアカップリング交換②</td> <td colspan="3">[Bar]</td> </tr> <tr> <td>ブレーキ部点検・調整</td> <td colspan="3">[Bar]</td> </tr> <tr> <td>その他走行駆動装置・レール点検</td> <td colspan="3">[Bar]</td> </tr> <tr> <td>足場解体・走行運転確認</td> <td colspan="3">[Bar]</td> </tr> <tr> <td>法定検査</td> <td colspan="3">[Bar]</td> </tr> </tbody> </table>			3月	4月	5月	ギアカップリング交換	準備・足場設置	[Bar]			ギアカップリング交換①	[Bar]			ギアカップリング交換②	[Bar]			ブレーキ部点検・調整	[Bar]			その他走行駆動装置・レール点検	[Bar]			足場解体・走行運転確認	[Bar]			法定検査	[Bar]			<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
			3月	4月	5月																																	
ギアカップリング交換	準備・足場設置	[Bar]																																				
	ギアカップリング交換①	[Bar]																																				
	ギアカップリング交換②	[Bar]																																				
ブレーキ部点検・調整	[Bar]																																					
その他走行駆動装置・レール点検	[Bar]																																					
足場解体・走行運転確認	[Bar]																																					
法定検査	[Bar]																																					
	3号機 燃料取扱機の走行用電動機の損傷	3月23日	<ul style="list-style-type: none"> 3号機使用済み燃料プール内ガレキ撤去作業中に、燃料取扱機の走行用電動機の損傷を確認（北側1箇所、南側1箇所） 当該燃料取扱機の使用禁止措置を実施 2023年3月に電動機を取替を完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済 																																		

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (14/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
その他設備	6号機 タービン補機冷却系(純水)サージタンク水位低下	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 午前2時45分 タービン補機冷却系(純水)サージタンクの水位低下(55mm/h)を確認 午前6時25分 タービン補機冷却系海水ポンプ(A)冷却水の入口弁下流から水の漏えいを確認 午前6時29分 タービン補機冷却系海水ポンプを(A)から(B)へ切り替え 午前6時32分 6号機タービン補機冷却系海水ポンプ(A)を隔離し、サージタンク水位低下が停止したことを確認。冷却水は純水であり、放射性物質の漏えいはない 3月29日 当該配管の交換を実施し、試運転にて異常の無いことを確認 	・対応完了済
	ろ過水純水装置の汚泥装置油圧ポンプからの油の滴下	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 午前2時48分 汚泥装置油圧ポンプから数分に1滴程度の油の滴下を確認。 漏えい量は、約50cm×50cm×1mm 弁の閉止操作により油滴下の停止を確認 その後、運転圧で油が滴下しないことを確認 	・対応完了済
	原水ろ過水純水汚泥増設排水設備でのろ過水の漏えい	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 午前5時0分 設置工事中の排水設備の処理水タンクに亀裂、およびろ過水の漏えいを確認 試運用中の設備であり、放射性物質の漏えいはない 同日 ろ過水の漏えい停止を確認 	・タンク交換を2023年度予定
	5号機 原子炉建屋での漏えい検知警報発生	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 午前10時0分 放射性液体漏えい警報発生 現場確認の結果、残留熱除去海水系の配管貫通部より、指4本程度の太さで室内に流入していることを確認 水の分析の結果、5号機タービン建屋滞留水が流入したものと判断 4月7日 止水処理を行い、漏えい警報が発生しないよう、本設サンプルピットへの排水ラインの設置を完了 	・対応完了済

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (15/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
その他設備	5号機 原子炉建屋空調設備自動停止	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 午前4時55分 原子炉建屋空調設備において空調隔離弁が全閉し、自動停止していることを確認 モニタ指示値に有意な変動は確認されていない 他の作業で原子炉建屋の二重扉を「開」中のため、対応が完了次第復旧予定 3月24日 復旧完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	共用プール建屋の排気放射線モニタのサンプル停止	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 午前6時25分 運用補助共用施設（共用プール建屋）において、排気放射線モニタのサンプルポンプが停止していることを確認 3月18日 サンプルポンプを起動し、異常のないことを確認 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	総合文書管理システムサーバーの停止	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 総合文書管理システムの動作確認を行ったところ、サーバーの停止を確認 再起動を行ったが、復旧せず なお、正文書にて確認できるため、サーバーに接続できなくても問題ない 3月24日 部品交換後、サーバーを再起動し、システム動作に問題無いことを確認 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
その他建屋	登録センター休憩所の火災受信機警報	3月29日	<ul style="list-style-type: none"> 登録センター火災受信機に警報が発生 2階休憩所の天井脱落による感知器断線、および2階防火戸の歪が原因と確認 登録センター休憩所の使用禁止、および当該感知器の停止に伴うパトロールを実施中 当該天井および防火戸の修理と合わせ感知器等を復旧し、9月末完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済
	6号機T/B2階空調機室ブロック壁剥落	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 地震後パトロールで空調機室のブロック壁剥落を確認 当該箇所には立入禁止措置実施 ブロック剥落防止処置 6月完了済 修理方法検討後、11月に修理完了 	<ul style="list-style-type: none"> 対応完了済

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (16/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
その他	地盤・道路・護岸の地割れや沈下	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> • 5・6号機敷地護岸ヤード地表面での地割れや地盤の沈下を確認。なお、当該ヤードで多核種除去設備等処理水希釈放出設備設置に必要な環境整備工事を実施中であるが、工事中の立坑への影響がないことを確認 • 5・6号機ゲートから海拔2.5mエリアの海側に向かう道路で沈下を確認。当該箇所の通行不可 • バリケードで区画し、車両進入禁止措置実施 • 4月4日 応急復旧完了 • 構内道路の一部（アスファルト）に亀裂を確認 • 通行には支障がないため、状況を確認し、補修する予定 • 港湾にある設備を点検し、以下を確認 <ul style="list-style-type: none"> • 1~4号護岸エリア、5・6号護岸エリアにひび割れを確認 • メガフロート北側護岸ブロックにずれを確認 • その他護岸周辺設備に異常は確認されていない • 補修箇所はバリケードで区画。応急復旧は完了 • 新設港湾ヤード全体で舗装の沈下や割れ、護岸全体の沈下、護岸ブロックの変位等を確認 • 車両が進入できない状況にあり、車両進入禁止措置実施 • 4月1日 応急復旧完了 	<ul style="list-style-type: none"> • 対応完了済（今後は動態監視を継続し、状況に応じ、復旧方法を検討し、補修予定）

(参考) 地震発生後の福島第一原子力発電所の状況について (17/17)



分類	事象	確認時期	概要及びこれまでの対応状況	今後の対応
その他	地盤・道路・護岸の地割れや沈下	3月19日 ～ 3月24日	<ul style="list-style-type: none"> • 3月19日 高温焼却炉建屋周辺の沈下を確認 • 建屋周辺の入口道路に、沈下と亀裂を確認 • 高温焼却炉建屋東側の大型搬入口付近の沈下を確認 • 当該箇所を立入禁止の区域表示を実施 • なお、当該建屋内に保管の吸着塔他の設備は問題なし • プロセス主建屋およびサイトバンカ建屋周辺の地盤の沈下を確認 • 10cm～20cm程度の地盤沈下を確認 • 当該箇所は立入禁止の区画表示を実施 • なお、当該建屋内の設備等は問題なし • 4月13日 サイトバンカ建屋入口の応急復旧完了 • 4月25日 共用プール建屋大型搬入口前道路の応急復旧完了 • その他、複数の場所で沈下や道路の亀裂を確認 	<ul style="list-style-type: none"> • 対応完了済 (今後は、沈下箇所等の詳細調査を行い、修理方法を検討し、復旧予定)